

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	障害者支援施設 泰山寮	階数	地上2F
建設地	みよし市打越町山/神51番1 ほか9筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年1月 予定	評価の実施日	2016年10月30日
敷地面積	10,291 m ²	作成者	浅沼 泰志
建築面積	1,919 m ²	確認日	2016年11月10日
延床面積	2,395 m ²	確認者	加藤 知徳



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.5

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>13.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	13.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	13.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境								2.9
1 音環境			2.0	0.15	2.1	1.00		2.0
1.1 騒音			3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音			1.6	0.40	1.9	0.40		
1 開口部遮音性能			1.0	0.40	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能			2.0	0.60	2.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		居室1: L値=50	-	-	4.0	0.20		
1.3 吸音			1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境			2.7	0.35	2.8	1.00		2.7
2.1 室温制御			3.2	0.50	3.4	0.50		
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		適切な断熱計画	4.0	0.25	4.0	0.43		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境			3.2	0.25	3.8	1.00		3.4
3.1 昼光利用			4.2	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		共同生活室: 2.5%以上、居室1: 1.25%以上	5.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口			3.0	0.40	3.0	0.40		
3 昼光利用設備			1.0	0.30	4.0	0.30		
3.2 グレア対策			1.0	1.00	4.0	1.00		
1 昼光制御		居室1: バルコニー(庇)+カーテン	3.0	0.15	1.0	0.15		
3.3 照度			5.0	0.25	5.0	0.25		
3.4 照明制御		共同生活室: 1作業単位で制御・リモコン調整可能、居室: ヘッド単位	3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境			3.3	0.25	3.7	1.00		3.4
4.1 発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気			2.5	0.30	3.3	0.38		
1 換気量		共同生活室: 1.2倍以上確保、居室1: 1.4倍以上確保	4.0	0.50	5.0	0.33		
2 自然換気性能		2階居室: 1/10以上確保	-	-	4.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理			3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視			-	-	-	-		
2 喫煙の制御			3.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-		3.2
1 機能性			2.7	0.40	4.0	1.00		3.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60		
1 広さ・収納性		居室: 10m ² /床以上確保、全室個室	-	-	5.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応			3.0	1.00	-	-		
3 バリアフリー計画			1.0	0.30	2.5	0.40		
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	4.0	0.50		
1 広さ感・景観		天井高2.5m	-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース			1.0	1.00	1.0	0.50		
3 内装計画			4.0	0.30	-	-		
1.3 維持管理			4.0	0.50	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		便所の壁・床に防汚性材を採用、風除室扉は十分離隔を確保等	4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		清掃作業に使えるコンセント配置、各階にSKを配置等	4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性			3.1	0.31	-	-		3.1
2.1 耐震・免震			3.0	0.48	-	-		
1 耐震性			3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.7	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		② リン吹付25年	4.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		塩ビシート20年、ビニルクロス(下地共)20年、ホード類30年	5.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種: 給水(B)・汚水排水(B)・雑排水(B)、Eは不使用	5.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-		
2.4 信頼性			2.8	0.19	-	-		
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-		
3 電気設備			3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		② 耐震クラスA	4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.5	1.00		3.3
3.1 空間のゆとり			3.6	0.31	4.0	0.50		
1 階高のゆとり		階高3.8m	4.0	0.60	4.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ		居室1: 壁長さ比率=0.26	3.0	0.40	4.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-		
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-		
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-		
3 電気配線の更新性		EPS・ケーブルラック・天井内転シ配線の採用	5.0	0.11	-	-		
4 通信配線の更新性		EPS・ケーブルラック・天井内転シ配線の採用	5.0	0.11	-	-		
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-		

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.5	0.30		-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		1階多目的室1を地域に開放、風向ホトを計画等	4.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI _m =0.57				
1 建物外皮の熱負荷抑制				4.0	0.30		-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20		-	3.0
3 設備システムの高効率化					0.30			4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			BEI _m =0.96	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)							-	
4 効率的運用					0.20			2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1 モニタリング							-	
4.2 運用管理体制							-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護					0.15			3.0
1.1 節水					0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.63			3.5
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		押出法ポリスチレンフォーム、ビニル系床材	4.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		躯体+GL工法+仕上で分別が容易、OA707を採用	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用					0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					0.68			
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材はノンフロン製品を採用	4.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:88%			3.4
2 地域環境への配慮					0.33			2.3
2.1 大気汚染防止					0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善					0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.25			
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.40			
1 騒音	独自			3.0	1.00		-	
2 振動	独自			-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.20			
1 屋外照明及び屋内照明の立ち上り光への対策				1.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

障害者支援施設 泰山寮

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:13.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	4ユニット制による家庭的な単位、中庭・デッキといった半外部空間をもうけることで、入所者様の生活環境の充実、精神面の安定が得られる施設として計画した。又、地域交流ホールを設け、地元住民の活発な利用が出来るよう配慮した
Q1 室内環境	全面的にF☆☆☆☆の材料を使用することや適切な換気計画とすることで、室内空気質環境に配慮している。構造部材を痛めることなく配線の更新・修繕ができる。内外装共、防汚性に配慮して素材を採用している。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い材料や防汚性材等を採用し、建物の維持管理に配慮している。構造部材を痛めることなく配線の更新・修繕ができる。内外装共、防汚性に配慮して素材を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界から後退した建物配置とし、可能な限り敷地境界沿いに植栽をすることで、周辺環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	適切な外皮性能を確保すると共に、LED照明等による設備システムの効率化を計画することにより、エネルギー消費を低減させることに配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水型器具を採用することにより、水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して97%としている。光害の抑制として、「光害対策ガイドライン」のチェックリストを一部みだし、広告物照明を行わない。
その他	